

# 地域活性化政策と取り組み

—近畿地方に着目して—

下川 健太 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 黒須 朱莉

キーワード：地域活性化，地域創生総合戦略，近畿地方

## 1. 緒言

地域活性化は、現在日本において重要な課題として位置付けられている。飯田ら（2016）の文献から明らかなことは、地域活性化において、この要素や条件があれば地域活性化の成功に繋がるといった明確な方程式は存在せず、成功する要因はその事例によって多様であり、実態は複雑なものだということであった。そこで、本研究は現時点での自治体の地域活性化に向けた方針や課題、また実際の具体的な取り組みを把握することに焦点をあてた。

本研究は近畿地方に限定し、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県、大阪府が地域活性化を図るために掲げる方針と、実際の事例を明らかにすることを目的とした。そのために、6府県の地域創生総合戦略の概要と事例の特徴を明らかにすることを課題とした。

## 2. 研究方法

文献調査を行った。まず、近畿地方6府県の地域創生総合戦略を調査した。次に、具体的な取り組みの事例として、財務局のHP内「地方創生・地域連携」に掲載されている地域活性化の事例を調査した。

## 3. 結果と考察

第一章では、まず地域創生総合戦略の背景として、日本の少子高齢化、雇用の問題、東京圏への人口流入という問題が存在することを確認した。次に、地方の地域創生総合戦略の5つの点として、人口減少と地域経済縮小の克服、

「ひと・まち・しごと」の創生と好循環の確立、「ひと・まち・しごと」の創生に向けた政策五原則、国と地方の取組体制とPDCAの整備、地域創生に向けた基本目標をまとめた。

第二章では、近畿地方における地域創生総合戦略の概要と取り組みの事例をまとめた。その結果、地域活性化に方程式はあるという前提に立つこと自体が誤りであるということを変更して確認することができた。もしそのような方程式が成り立つとするのであれば、例えば滋賀県で行われていることが大阪府でも成功する、その逆もしかりということになる。しかし、本研究で明らかになった住民主体で行われている滋賀県の地域活性化の特徴は、大阪府で成り立ちやすいかということとそういうわけではない。逆に大阪府にある企業や仕事を滋賀県で誘致したり行ったりできるかということとそういうわけでもない。つまり、現在の府県ごとの地域創生総合戦略の指針と事例の特徴をみてきたことによって、「地域活性化の方程式はない」という先行研究による指摘が、より説得力をもつものとして明らかになったといえる。よって、まずは「地域活性化の方程式がある」という前提から離れることが、地域活性化を考え、取り組んでいく上で重要だといえるだろう。

## 引用・参考文献

飯田泰之・木下斉・川泰一・入山章栄・林直樹・熊谷俊人（2016）地域再生の失敗学，光文社。